

研究構想図

研究主題 ■★◆

「紙を漉いてプレゼントしよう!」「学校の窓をきれいにしよう!」の活動を通して、コミュニケーションの楽しさを感じる生徒
～体験的な活動を重視した「作業学習」「総合的な学習」の実践を通して～

目指す児童生徒像★

相手を意識して、コミュニケーションを取り、楽しさを感じる生徒

研究の内容(手だて等の教師支援、関連等)

仮説②「学校の友達や地域の方との交流する時間において、作業学習の成果を披露する場を設ければ、コミュニケーションの楽しさを感じるだろう。」
—手立てⅢ 作業学習内で、報告する、話を聞く場を設定する。

授業で、コミュニケーションを取る上での基本を学び、日常生活に即した学習の場で、実践をしていくことで、相手を意識して、コミュニケーションを取ったり、楽しさを感じることができ

・授業を公開し、作業学習の基本的内容や、生徒の様子を職員に知ってもらえるようにする。

仮説①「コミュニケーションを取るときに必要なことを提示し、視覚的に理解できるように支援すれば、実践できるようになるだろう。」
—手だてⅠ「コミュニケーションカード」を作り、話しかけるときの姿勢や目線などを意識できるようにす

日常生活に即した場

授業の場

研究仮説(研究目標) ■★◆

仮説①「コミュニケーションを取るときに必要なことを提示し、視覚的に理解できるように支援すれば、実践できるようになるだろう。」

仮説②「学校の友達や地域の方との交流する時間において、作業学習の成果を披露する場を設ければ、コミュニケーションの楽しさを感じるだろう。」

児童生徒の実態

○抽出生徒は自閉症 特性上コミュニケーションをとることが苦手。
○昨年の幼児との交流では、空いている時間は部屋の隅で一人で過ごしていた。誘っても、幼児の集まりの中には入らなかった。